

平成 27 年度 中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会
第 1 回 人工島環境整備専門部会
〈平成 26 年度専門部会等における主な意見等とその対応について〉

意見等	対応
<p>●淡水池について</p> <p>・淡水池について、将来的には水質の悪化が懸念される。(H26 第 2 回専門部会、H26 第 2 回環境保全・創造検討委員会)</p>	<p>維持管理・運営に係る提言に反映する(資料 7, p2)。</p>
<p>・淡水池への流量を確保するために、比屋根湿地や県総合運動公園に流れ込む淡水を流用できないか。</p> <p>・人工島に降った雨を貯水する施設を設置し、そこから淡水池へ水を流入させることはできないか。(H26 第 2 回専門部会)</p>	<p>淡水池の想定される必要水量(水深 1m 程度)は、集水により、年間を通じて確保される。</p> <p>導水や水貯留施設については整備コスト、維持管理の観点から今後の課題とし、野鳥の生息に配慮しつつ引き続き検討していく。</p>
<p>・淡水池は海沿いに整備されるので、波浪の影響が考えられる。何らかの対策が必要ではないか。(H26 第 2 回専門部会)</p>	<p>植栽計画に反映する(資料 6, p1)。</p> <p>(計画地の地盤高は海面に対して相当程度高いため、越波などによる計画地内への直接の影響は小さいと考えられるが、植栽を適切に配置するなどして影響の低減に努める。)</p>
<p>●植物について</p> <p>・オキナワキョウチクトウは毒性を有する。こういう樹種を植栽し、子供たちに危険な生物の存在を教育することも必要ではないか。(H26 第 2 回専門部会、H26 第 2 回環境保全・創造検討委員会)</p>	<p>オキナワキョウチクトウについては、利用者の安全に配慮し、植栽することを検討する。</p> <p>なお、環境学習センター内で写真パネル等を展示することも検討する。</p>
<p>・植物についての方言名を示すのであれば、沖縄市での呼び名を示すべきである。</p> <p>・拠点施設において、植物のパネル展示を行う際は、方言名、人々との関わりを示せばよい。(H26 第 2 回専門部会)</p>	<p>方言名は、沖縄市の方言名を可能な限り記載し、沖縄市の方言名が不明な樹種については、一般的によく使われている沖縄の方言名を記載する(参考資料 5)。</p> <p>なお、植物のパネル展示については、拠点施設に求める機能の一つとして整理し、施設計画に反映する(資料 5, p2)。</p>

<p>●規制等について</p> <p>・隣接するビーチでのマリナクティビティが野鳥の生息に影響を与えるかもしれない。野鳥園周辺も含めた総合的な検討が必要である。 (H26 第1回専門部会)</p>	<p>動線計画に反映する(資料4, p1)。 (活動制限箇所の検討で対応する。)</p>
<p>・天敵(野ネコ、野犬)に対する検討はなされていないのか。(H26 第2回専門部会、H26 第2回環境保全・創造検討委員会)</p>	<p>施設計画に反映する(資料5, p1)。 (敷地境界にフェンスを設置する。)</p>
<p>●維持管理・運営について</p> <p>・野鳥園全体をフィールドミュージアムとして活用できないか。沖縄市には郷土博物館があるが、自然史系の博物館がないので、野鳥園にその機能を持たせればよいのではないか。一方で、野鳥園を管理し、野鳥について解説ができる学芸員等の人材育成も欠かせない。 (H26 第1回専門部会、H26 第2回環境保全・創造検討委員会)</p>	<p>維持管理・運営に係る提言の中で考え方を記載する(資料7, p3)。</p>
<p>・愛好会、同好会等が設立され、維持管理に携わることができれば、立派な野鳥園の創出に繋がるのではないか。</p> <p>・興味深い観察会、学習会等を開催することで、人は集まるのではないか。生涯学習が叫ばれている時代であり、学ぼうという意識が高い人も多い。そういう人達が、ボランティア活動(清掃、草刈り等)にも参加するようになれば、維持管理の担い手として活躍してもらえないか。 (H26 第2回専門部会)</p>	<p>維持管理・運営に係る提言に反映する(資料7, p3)。(多様な主体との連携や各種イベントの必要性について記載する。)</p>
<p>・市民の声を吸い上げるのは重要である。将来の運営、維持、管理を考えた際に、市民との協働は欠かせない。(H26 第1回専門部会)</p>	<p>維持管理・運営に係る提言に反映する(資料7, p3)。</p>